

同計五號 九月十五日發 臺灣通商局

機密第一七號

華銀行支店設立、儀具申、件

當港、貿易、年々漸、進、テ、進、歩、合、テ、來、リ、テ、  
 昨、三、十、四、年、度、輸、出、入、貿、易、總、額、金、七、百、十、九、  
 萬、六、千、七、百、九、十、四、圓、三、達、セ、リ、今、已、往、十、年、間、  
 貿、易、額、ヲ、示、セ、ル、如、シ

元山港已往十年間輸出入貿易流計

年次	輸入額	輸出額	總計	輸入超過	輸出超過
明治廿九年	一〇〇、三、八、二	一、一、三、三、三、四	一一、一、七、二、一、六		一、一、九、九、五、四
左、廿、九、年	九、五、六、〇、四、六	一、一、六、三、三、八、三	二、一、一、四、三、三、九		二、一、〇、三、三、七
左、廿、七、年	一、五、七、一、六、四、六	一、〇、三、八、六、三、三	二、六、一、〇、三、九、九		五、三、三、九、九、三
左、廿、八、年	二、〇、九、〇、三、四、四	一、七、三、三、三、三、〇	三、七、二、三、六、七、四		四、七、七、七、四
在韓國元山港					
左、廿、九、年	一、四、〇、一、四、四	一、七、七、三、四、三、四	三、一、九、三、五、七、七		三、五、三、三、〇、九
左、廿、八、年	二、〇、三、七、七、〇	二、五、三、六、〇、〇、四	四、五、九、三、七、七、四		四、三、三、三、三、四
左、廿、七、年	二、三、三、三、九、八	二、六、四、三、三、三、六	四、九、七、七、三、四		三、一、一、三、〇、八
左、廿、六、年	二、三、三、七、九、七、七	二、三、七、七、四、一	四、七、一、五、三、八、八		三、四、三、七、七、一
左、廿、五、年	二、五、一、〇、三、三、六	三、四、〇、九、九、四、二	五、九、二、〇、二、七、八		八、九、五、五、七、六
左、廿、四、年	三、一、三、九、三、〇	四、〇、七、四、六、四	七、一、九、三、九、七、四		九、九、九、九、三、四
日本領事館					

右、中、本、邦、商、人、ノ、年、々、依、ル、モ、其、二、分、一、以、上、ヲ、占、ト、斯、  
 如、ク、今、日、ノ、貿、易、額、ハ、二、十、七、八、年、ノ、日、清、戰、争、以、  
 前、ニ、比、シ、テ、ハ、實、ニ、三、倍、ノ、多、ク、及、ビ、將、來、益、々、増、加、  
 セ、ン、ト、ス、ル、ノ、疑、ヲ、存、セ、ザ、ル、事、実、ナ、リ、ト、信、ス、然、ル、ニ、二、十、七、  
 八、年、頃、ニ、ハ、邦、ノ、銀、行、及、第、百、二、銀、行、ノ、二、支、店、ヲ、リ、テ、  
 金、融、ノ、流、通、ヲ、圖、リ、本、邦、商、民、ハ、為、ニ、大、ニ、便、利、ヲ、  
 感、セ、シ、モ、不、幸、ニ、テ、邦、ノ、銀、行、支、店、ノ、火、災、ノ、難、ニ、遭、

臺灣通商局  
 九月十五日發

過シテ遂ニ之ヲ閉シ次テ亦亦百ニ銀行ニ閉店ノ  
 已トナキニ至リシヲ以テ第ナハ銀行ニ代テ其後  
 ノ継テテ當地ニ閉店シ爾來香港唯一銀行ト  
 シテ其營業ヲ持續セリ前頭ノ如ク貿易ノ發  
 達セシニ拘ハラス金融機關トシテオナハ銀行  
 アルノミニシテ他銀行ノ設置オオト在留邦邦  
 商人ノ最モ不利不便ヲ感シツ、マル所ニシテ切  
 其開店ヲ希望シテ止マサルナリ其之ヲ望ム所  
 以ノモノハ、邦ナハ銀行ノ資金ノ薄少ナル、其ノ系  
 因ナルヘケレトモ其重ナル理由ハ該銀行ニ香港ニ  
 於ル獨占ノ地位ヲ利用シ徒ラニ自巴ノ利ヲ算リ  
 本邦商人全体ノ利害ヲ顧ミカレズニ在リ蓋  
 シ黨利的事業ヲ營ト者ニシテ他ニ競争ノ者  
 在韓國元山港 日本領事館  
 ナキトオト其利益ヲ漸漸セトスルニ執リ免レサル  
 所ナレトモ尚モ銀行家トシテ其事業ヲ言ム  
 以上自巴ノ利ヲ謀ルト共ニ又其地亦一船ノ利  
 益ヲ考察セサルヘケラサルニ論ヲ待タサル所ナル  
 ヘシ今試ニ其ノ例ヲ挙ケレハ市場場價騰  
 一及金一円ニオオテ、物品ニ對シ金一拾五  
 マケ付分テ已銀行ニ付テハ、言ハレバ、利息ノ大ナルハ、  
 毛狗ハラス金ハ拾五ヲコリ以上ヲ貸付リハ能ハ  
 トテ斷テトシテ商人ノ希望ニ應セヌ商人、他ニ  
 求ル道ナキナリ止レナク一及金一拾五ニテ  
 融通ヲ仰ク如キ有様ナリ若シ他ノ銀行  
 ナリトスレハ該銀行ニ決シテ斯レ壓制的ノ行  
 為ヲ為サレヘキト曰希ニシテ又假令該銀行ニ

在テハナクモアテバ貸付ル能ハストルモ他ノ銀行ニ  
 於テハナクモアテバ貸付ル能ハストルモ他ノ商人ニ  
 一反ニ付キユキテ完ノ融通ヲ受ケ一年間ニ利用シ  
 得ヘキ資金ヲ増進シ後テ多港ノ繁栄ヲ招クニ  
 功アリ又祝ニ本邦商人夏目ナル者千額一ヶ  
 儀ニ依テ四回ノ仕入レ之ヲ概当トシテ銀行ニ貸  
 金ヲ求メタリ此者ニ當國若港ニ支店ヲ有シ  
 港ニ於テノ商指ノ商人ニシテ多年多港ニ在任ニ  
 信用モ厚ク詐欺的ノ行為ヲ為ス者ニアラズ然ルニ  
 銀行ニ之ニ對シテ額一ヶ儀トモテモ検査ノ上テラ  
 信用ニ疑シ故ニ其係數ヲ検査セサレニ融通  
 莫クシ能ハスト然ルニ倉庫内ノ一ヶ儀ノ數ヲ一  
 查スルニ後ラニ千數ヲ要スルノミナラス一儀ニ付キ  
 在韓國元山港 日本領事館  
 ニ僅ツノ必費ヲ承テ夏目ニ已ラケテ之ヲ兼備セシ  
 ニ銀行ニ更ニ之ヲ検査ノ際貨物ヲ運移スル際  
 銀行ノ倉庫ニ入レント然ルニ之ヲ為スニ付ラニ一儀ニ  
 付キ尚シ僅ツノ費用ヲ要ス之レ尚思クヘント然ルニ  
 銀行倉庫ニ入レトキハ毎一ヶ月一儀ニ付キオ  
 層敷料ヲ拂ハルハカラス之レ銀行ノ主眼トスル所  
 ナリ故ヲ以テ右商人ニ他ニ資金ノ融通ヲ能ハ  
 アリトモ右ニシテ例ニ過キサレトモ該銀行ノ遣口  
 概子此ノ如シ之レ歟イハ銀行其者ノ方針ニア  
 ラズ支店支那人其人ニ由ルヘント莫モ其職トシテ  
 由ル所ニ他ニ競争者ナキニヨラフンハアラズ故ニ他銀  
 行ノ設置ナキ間ニ支店支那人數度ニ其人ヲ代  
 ルモ左ノ數ヲ踐マレテ豫言スルヲ得ヘシ此弊ヲ

ヲ除キ本邦商人、利益ヲ謀リ香港貿易ノ發達ヲ  
 期セントモ、他ノ銀行ヲ開設スルニ當リ、又目下  
 ノ急務ナリト信ス所ノ按レ、亦一銀行ノ設立  
 發會ニ於テ再ニ各地ニ支店開設ヲ決議セリト  
 然レトモ未ク之ヲ準備シ、着手セラル、厚カスカ  
 銀行ニ於テ此決議ニ遵ヒ、速ニ開設ノ運ヒニ皇マ  
 ヲト、各地商民一般、希望スル所ナリ  
 今オオ、銀行ヤ各地ニ發會、資金ヲ備ヘ發會ノ  
 利益ヲ得ルヤ、亦ヘテ市況改善ノニ倍セント欲ス  
 該銀行ノ運轉シ、了ル金額ニ大凡ク在リ、如シ  
 一、銀行ノ常實正金約四百五十万圓  
 一、居留地内諸貯蓄金約一百万五千圓  
 一、守備隊其他公金約一十七万八千圓  
 在韓國元山港 日本領事館  
 一、定期預金約一百万五千圓  
 此外者、應預金及海關并ニ外人(五部人ヲ含ム)ノ  
 預金ヲ含ム、其額ニ二十万圓、多クハ達ス、而シテ  
 其貸附金高ニテ、月平均二十萬圓ニシテ、最も多ク  
 時ニシテ、萬圓ニ達スルコトアリ、又、其純益金ハ  
 一、今年四五萬圓ヲ下ラト云フ、尤モ右ノ銀行ニ於テ  
 頗ル秘密ニ附シ居ルヲ以テ、当地商民ノ推察  
 ナリ、若シモ推察ニシテ、大差ナシトス、此港ニ於ケル  
 銀行事業ニ有利有望ニシテ、銀行并立スルモ  
 一、今年二万圓以上ノ取符アルヘリ、況ンヤ、亦ハ銀行ハ  
 已ニ当地ノ人心ヲ失ヒタルヲ以テ、亦一銀行ニシテ、其交  
 店ヲ開設ス、トオ、充分ニ其利益ヲ得ヘオ、トモ保  
 証スルヲ得ヘシ



斯、加、本邦商人ニクシ、他銀行ノ設立ヲ希シ、  
ルニ抑、其苦痛ヲ思ヒ、敢テ之ヲ運動シ、  
銀行ニ至、友人ノ感情ヲ損シ、  
行為ヲ設クシ、  
当港商人ノ充分ニ設達シ得ル所以、  
ノ減少、貨物販路、  
莫モ前陳、  
其資金、  
原因、  
貿易、  
速ニ設ク、  
蒙、

明治三十四年八月三十一日  
在韓國元山港  
日本領事館  
在元山  
知事、  
三

外務大臣男爵、  
殿



機密

明治三十五年 九月十七日 起  
八月十八日 發遣



明治三十五年九月十七日發遣

主任

三十五年九月十七日接受  
中 十七

回書

機密送第10之號

外務省

阪谷大藏院報告

第一銀行支店設立方、件

外務省

韓國之山港、第一銀行支店設立方、件  
之、銀行般支店、同、在内地、常、領事  
彼、率、揚、代理、事、具、申、呈、官、可、此  
以、陰、謀、支、助、極、致、支、助、也、道、  
之、  
近、而、於、此、以、覽、滿、之、六、支、店、道、道、房、支、助、也、

(外務省報告第一七号其件添付) 奉)

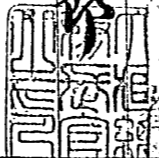
本年九月十七日付様密送第一〇七号ヲ以テ  
 元山ノ第一銀行支店設置於コトニツキ帝  
 國領事具申ノ件ニ関シ御照會ノ趣  
 領事右ノ第一銀行ニ既ニ同地ニ於テ  
 小額一覽掛ノ子形ノ發行ニ差許シ  
 有之次第ニツキ支店設置ノコト勿論  
 相當ノ報下存於在然右ニツキテハ至精  
 國公使館ノ御意嚮ハ如何可有之ハ  
 差支モナキ報ニ於ハハ當省ノ第一銀  
 行ニ其ノ旨申談可申御 回答  
 及御照會也  
 明治三年九月廿二日

宣統元年七月九日

宣統元年七月九日

本年九月十七日付様密送第一〇七号ヲ以テ  
 元山ノ第一銀行支店設置於コトニツキ帝  
 國領事具申ノ件ニ関シ御照會ノ趣  
 領事右ノ第一銀行ニ既ニ同地ニ於テ  
 小額一覽掛ノ子形ノ發行ニ差許シ  
 有之次第ニツキ支店設置ノコト勿論  
 相當ノ報下存於在然右ニツキテハ至精  
 國公使館ノ御意嚮ハ如何可有之ハ  
 差支モナキ報ニ於ハハ當省ノ第一銀  
 行ニ其ノ旨申談可申御 回答  
 及御照會也  
 明治三年九月廿二日

大森信吉法律博士 阪谷芳郎



大森信吉法律博士 阪谷芳郎

近ノ於此ノ申申報ノ趣ニテ御返答

致也

宣統元年七月九日





機密第一二二二號

一覽掛手形ヲ第一銀行、外他銀行、  
許スノ可否ニ關スル件

本件ニ關シ機密第六五號貴信ヲ以テ本使ノ意  
見御下問ノ次第致リ承蒙本件ニ關スル本使ノ  
意見ハ昨三十四年十月十九日附機密第一〇九號  
信中ニ詳細及票申奏通り第一銀行ハ韓國  
政府ニ對シテハ海關稅取扱銀行トシテ年來々  
百萬圓内外ノ出納ヲ司リ且ハ韓國度支部始メ  
樞要ノ部局ニ對シ多額ノ貸出シ為シ居リ  
我居留商民并ニ銀行ニ對シテハ殆ント中央銀  
行ノ業務ヲ為シ居去付此特別ノ地位ニ對  
スル一種ノ特權トシテ承認スルハタルモノト見テ  
差支之之本使ハ今猶ホ同様ノ意見ヲ有シ  
居去加之如御未示取繕上又ハ信用ヲ維持  
スルニ於テモ一行ノ限ルコト時宜ヲ得タルモノト  
被存去付目下ノ處一覽掛手形發行ノ營業  
業ハ第一銀行、獨白為設置度去付係右  
一覽掛發行ノ營業ハ現下ノ狀況ニ於テハ既  
相當有利ノ事業ニ有之今後行負、勉勵  
伴ヒ一層其利益ヲ增加スルコトニ可相成去付  
同銀行ヲ以テ此利益ニ對シ追々韓國内ニ於テ  
我利益線擴張ノ義務ヲ負擔セラルハ我  
於テ十分ノ理由ヲ有シ且ハ對韓政策上機宜  
ヲ得タル方便ニ有之去付今後本使ニ於テ

在韓國日本公使館

號242第受

一覽掛

一覽掛

本件ニ關シ機密第六五號貴信ヲ以テ本使ノ意見御下問ノ次第致リ承蒙本件ニ關スル本使ノ意見ハ昨三十四年十月十九日附機密第一〇九號信中ニ詳細及票申奏通り第一銀行ハ韓國政府ニ對シテハ海關稅取扱銀行トシテ年來々百萬圓内外ノ出納ヲ司リ且ハ韓國度支部始メ樞要ノ部局ニ對シ多額ノ貸出シ為シ居リ我居留商民并ニ銀行ニ對シテハ殆ント中央銀行ノ業務ヲ為シ居去付此特別ノ地位ニ對スル一種ノ特權トシテ承認スルハタルモノト見テ差支之之本使ハ今猶ホ同様ノ意見ヲ有シ居去加之如御未示取繕上又ハ信用ヲ維持スルニ於テモ一行ノ限ルコト時宜ヲ得タルモノト被存去付目下ノ處一覽掛手形發行ノ營業業ハ第一銀行、獨白為設置度去付係右一覽掛發行ノ營業ハ現下ノ狀況ニ於テハ既相當有利ノ事業ニ有之今後行負、勉勵伴ヒ一層其利益ヲ增加スルコトニ可相成去付同銀行ヲ以テ此利益ニ對シ追々韓國内ニ於テ我利益線擴張ノ義務ヲ負擔セラルハ我於テ十分ノ理由ヲ有シ且ハ對韓政策上機宜ヲ得タル方便ニ有之去付今後本使ニ於テ

狀況ヲ精査シタル上適確ニ稟申可及ト存テ  
 例ハ現在開港場中未夕同行支店ノ設置ナ  
 キ固所ニ時機見計ニ支店ヲ設置セシムルコト  
 并ニ京釜鐵道其他ノ利益線擴張供ト相  
 當ノ金融機關ヲ義務的ニ内地有望ノ地  
 設立セシムル等ハ目下本使ノ腹案ニ存スル所ニ有  
 之ヲ就テハ一覽掛券發行ハ當分他銀行ノ許  
 可セサル同時第一銀行ノ對シテハ利益權  
 張ノ對シ強要スヘキ相當ノ義務的ノ事業計  
 畫セサルハ於テハ何時ニテモ右特權ヲ削除スルノ  
 態度ヲ示ス事必要ニ可有之ト存テ又第一  
 銀行ハ世間ヨリ異常ノ特權ヲ得タルモノト認メラ  
 レ矣儀ナレハ該銀行ハ少クトモ德義的ニ可成

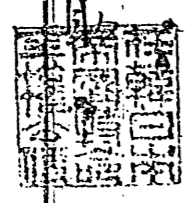
在韓國日本公使館

公利益ノ擴張スルノ義務アルコト存テ以上本使ノ  
 腹案ノ如キハ則チ公益ヲ進ムルノ方法ト被存テ夫  
 而已ナラス該銀行ノ取リテモ一方事業ノ範圍ヲ  
 擴張ストコトヲカメステテ單ニ手形ノ發行シカムル  
 ノ結果ハ適以テ我日本銀行業ガ市上ヨリ驅逐シ  
 去ルノ傾向ヲ見ルニト存テ間銀行負ハ宜シク當  
 甘ニ精勵事業範圍ノ擴張ニ勉ムヘキ事自家  
 將來ノ利益ト存テ仍チ右ノ趣意ヲ以テ大藏  
 省ニ御回答成テ様致企望ス  
 右御下問ニ應レ稟見及稟申テ致具

明治三十五年十月十六日

在韓國

特命全權公使 林權



外務大臣男爵小村嘉平郎殿

在韓國日本公使館

3-0409

0598



號ノルム第受

明治三十五年十一月六日

二一號

再口票請ノ件

本銀行支店設立ノ件ニ関シ八月三十日附  
 機密第一七號 秘信ヲ以テ及具申ル  
 處今般当地商業會議所ヨリ別紙  
 ノ通リ申請相成ルニ付キ差進以テ  
 申査閱在成初以前ニモ陳陳然以テ  
 当地在邦人ノ銀行増設ノ必要ヲ感シ  
 居リ以テ柄一旦本銀行支店設立ノ  
 評傳播セラルヤ皆歎呼シテ多年ノ宿  
 望ノ達セラレトテ喜ビ今ヤ一日午申ノ思  
 在韓國元山港 日本領事館

本邦商人ノ失望甚勝嘆息ノ情有  
 云以百右銀行支店連ニ開設可致様也  
 配慮未成ニ別紙添此級重子及票  
 請ハ級具

明治三十五年十月三十一日

在元山

領事館事務代理山崎三雄

外務大臣男爵小村壽太郎殿

右記係本領事館  
 事務通商局  
 17.9.1  
 此ノ件ニ係リ  
 本領事館  
 事務通商局  
 事務長  
 山崎三雄  
 印

籌備五拾六號

銀行増置、件、付申請案

銀行増置、件、付申請案候

東京の港、創業以來東京銀行、正統  
赤アリ貿易漸々發達スルニ從ヒ明治二十二年、  
漢對馬銀行、開設トナリ、後長  
崎十八銀行、百式ニ付テ、支店ヲ置ケリ、故ニ明  
治二十九年迄、東西行ニ依リテ、金銀、國  
幣ナルヲ得ナリ、限ラ、ハ當時、青島銀行、火災  
ニ罹リ、終ニ二十九年九月二十五日ヲ以テ閉歇スルニ  
至リ、爾來十八銀行一旗ノミトナリ、回復スルニ  
至ラズ、二十七八年頃、貿易品總額、概ニ百萬圓ニ至

在元山日本人商業會議所

ニテ、ハ程ナリ、ニシテ、今ヤ青島、貿易品總額、ミトナリ、膨脹  
シテ、三十四年ノ如キ、概ニ七百餘萬圓ノ上ニ至リ、西銀行  
存立ノ時、ヨリ、ニ倍以上ノ發達ヲ見セリ、銀行増  
置ノ必要、可ク繁盛ヲ要セン、元山貿易品助長  
ノ為メ、ニ果シ、一〇〇萬圓ノ緩フス、カ、ラ、アルノ必要、ナラ  
信ズ

東京、況ラ、其節、御申相成、適當ノ銀行ヲシテ、元山ノ支店ヲ  
開設セシメ、ラ、美極、御取斗相成、度、會議所、決議、ヲ以テ  
天候、及、申請、案、也

明治三十五年十月三十日

在元山港日本人商業會議所、倉敷、島、長、島、

領事、報告、代理、領事、官、浦、島、三、雄、殿







外務省  
 通分...  
 ...  
 ...

3-0409

0503

明治廿六年六月十八日 要

機密第一〇〇號

平壤第一銀行の設置を以て  
要件

平壤府が外國貿易に開放せしむる以來既に數  
年を経過するに係り同地は在りて商業の發  
達及び其發達甚多なるに實際不可思議  
ノ現象あり之を以て今該地方に出張所を設  
置し友に報告せしむるに依りて平壤に我金融核  
ノ設置を以て在りて商業不振ノ原因ありて  
ノ事例に依りて在りて在りて在りて在りて在り  
間定期航海欠金も亦其原因ト在りて在りて在り  
此欠金の既取不完全ナリ用款に在りて在り  
該地に金融核を以て設置し爲るに在りて在り  
在韓國日本公使館

機密第一〇〇號

商民に供して我商業に一段繁榮を以て在り  
在りて在りて在りて在りて在りて在りて在り  
此種改善該銀行の帝國政府より重要ナル  
特權を以て之を以て在りて在りて在りて在り  
再り最初収支を以て在りて在りて在りて在り  
出張所を開始せしむるに在りて在りて在り  
之同様に責任者ハ自勸誘を以て在りて在り  
在りて在りて在りて在りて在りて在りて在り  
又近日英國公使より同様に在りて在りて在り  
好望するに在りて在りて在りて在りて在り  
ノ事付在りて在りて在りて在りて在りて在り  
在りて在りて在りて在りて在りて在りて在り

3-0409

0504

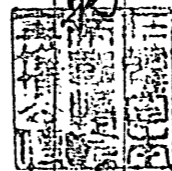
右及

右及重中

明治三十六年六月十一日

在韓

特命全權公使林權助



外務大臣黒澤山村壽太郎殿

在韓國日本公使館







原甲第ハ三號

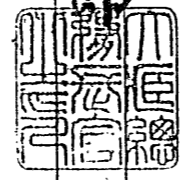
通商

六月二十五日

原甲第八九六四號

六月二十五日付 樺太第七三號  
 以照令お申付 韓國平壤ニ第一銀  
 行出張所設置方之件 委細了承  
 子速今行重役ヲ呼出テ意向問合  
 於屬今行ニ於テモ己ニ小韓貿易ノ意  
 查上此際平壤ニ出張所ヲ設ケスル  
 極メテ必要ナルヲ認メ先般京城支店  
 長陽新ノ際全支店長ニ對シ之カ設屋  
 方ノ関スル調査ヲ命ジ星々ニ趣及居  
 申付尤モ令支店長ハ去月二十六日  
 京城ニ歸居致目下之カ調査ニ任事  
 致居候事ニ趣及居 漢報先利達  
 大蔵省  
 明治二十六年七月九日

大蔵總務長官法學博士阪谷芳郎



外務省秘書長吉野田松巳殿

追テ鎮南浦常設出張所設置ノコトニ關  
 シテハ第一銀行ニ於テ己ニ在リ續テ履  
 行ニ付了レシ候旨此後存念中添テ也

御書

文書課長

御書

御書

明治卅六年七月十一日接書

別紙

38

浄書

校正  
原

明治卅六年七月十一日  
同 年 月 日  
日起草  
日發遣

主任

主任

宗

宗

平藤格次

大臣

明治卅六年七月十一日

平藤格次

三十三

外務省

平藤格次

平藤格次

平藤格次

平藤格次

平藤格次